



富山テレビ放送 (BBT)

海と日本PROJECT in富山県

一般社団法人とやまミライラボ



富山市を舞台とした事業を全国的な横展開モデルへ

2019年に日本財団と富山市が連携協定を結び、（1）調査・研究、（2）教育・啓発、（3）行動・実施の3視点から事業の組み立てを行ってきた。6年目を迎えた本事業では、表層の学びに留まらず、より深い学びに繋げることが課題であると考え、本年度は特に“教育”に重点を置いて取り組み、横展開可能なモデルの構築を目指した。学習コンテンツの制作や市の小学生向け海洋ごみ授業の拡充に加え、県内企業や農業事業者、流通と連携した様々な事業を実施した。一昨年度開発した「海洋ごみ問題を学ぶカードゲーム」を活用したモデル事業は、様々な層に海洋ごみについて楽しく学んでもらえるツールとして、多くの体験会を行い啓発を図った。

2024年度 実施状況について

その他事業：スポGOMI、流通連携事業、オイルフェンス設置事業など

学習コンテンツ制作



概要 ショウワノートとコラボし、「海洋ごみ」の学習帳を作製。

目的 小学校の探究学習の授業や、本事業の学びをさらに深める学習ツールの開発。

アピールポイント 富山湾のごみ問題の現状や、自分の家の近くで出たごみがどこに流れ着くかなど、より身近な海洋ごみ問題について知ることができる。

効果 県教育委員会を通じて、県内の小学校4年生 全7,724名に配布。

カードゲーム啓発事業



概要 カードゲームを用いたワークショップ・授業を開催。

目的 ゲームを通して海洋ごみ問題を深く理解し自発的な行動に繋げる。

アピールポイント 公認ファシリテーターを育成することで、全国的に事業が展開し自走していくモデルとなっている。

効果 公認ファシリテーター：新規4名
実施回数：61回
参加人数：小学生1,167名、中高生938名、大人392名

繁華街ごみ削減モデル



概要 繁華街のごみ調査を行い、実態に則した啓発活動を実施。その後再度調査を行い、効果測定を行う。

目的 繁華街のポイ捨てごみを削減することで、海洋ごみの削減に繋げる。

アピールポイント 繁華街の組合や、まちなかにある学生シェアハウスの大学生を巻き込み、様々な層にこの事業を通して海洋ごみ問題を啓発する。

効果 ・大学生5人のアイデアを形にした灰皿4台を設置
・灰皿設置後の調査結果は、2025年4月20日頃に判明予定。

農業連携事業



概要 プラスチックを使用しない「硫黄コート肥料」の普及・活用に向け、①啓発動画制作②子ども食堂で食育活動+海洋ごみ問題啓発③商品開発を行う。

目的 肥料の殻がプラスチックごみとして海岸に流れ込む問題を改善に向け、プラスチックを使わない肥料の普及啓発を目指す。

アピールポイント JA全農とやま、県農業研究所の協力のもと実施。さらに、県内最大手の菓子メーカーと商品コラボを実施。

効果 硫黄コート肥料を使用した「てんたかく」計740kgを県内42か所のこども食堂に寄贈。
コラボ商品は2025年3月28日～、約700個を販売。

海ごみゼロウィーク（清掃活動）



清掃活動参加人数 74,250人

箇所数 5箇所

アピールポイント 富山市、美しい富山湾クラブが行う大型ごみ拾いと連携しごみ拾いを開催。8月に開催した海岸清掃では、本事業を通して繋がった大型ショッピングセンターのキッズサポーターが参加し「海ごみゼロ隊」として活躍。

メディア露出



メディア露出本数 番組14本 告知CM140回（15秒5素材）

アピールポイント 本事業の海洋ごみに関するトピックを数多く取材し夕方ニュースで放送。
イベント告知も積極的に行なった。



2024年度の課題とこれからの展望

今年度の事業を通して、子供のころからの刷り込み、教育は重要であると改めて実感したため、次年度以降も“教育”的柱を中心に事業を展開していきたい。また、富山市をはじめ教育関連の企業・団体と事業を進めるにあたり、海洋ごみの知識を有した人材の不足を感じており、永続的な事業となるため、今後は「人材」の育成・発掘へ注力していきたい。